6)　材料の超塑性加工技術　　西村　　尚

超塑性は引張応力の下で巨大延性と低変形応力とが得られる特異現象として，その機構解明に関する研究が続けられているが，ここ十年ほどの間にその工業的応用を展開する開発研究に力が注がれてきた．従来，塑性加工が不可能であったぜい性金属材料，セラミックス，複合材料などのプレス加工，鍛造が可能となり，難加工材料の成形方法がより広く選べるようになった．

本構では，宇宙・航空産業を中心とした最近の超塑性利用技術の進歩のあとをたどって今後の展望について述べる．

4.　聴講無料（事前申込み不要）
5.　テキスト代　定価　3,000 円（消費税，送料本会負担）
6.　問合せ先　日本鉄鋼協会　編集・業務室（〒100　千代田区大手町 1-9-4　TEL　03-3279-6021）

～・～・～・～・～・～

■鉄基複合材料部会 第 2 回中間報告会案内■

昭和 63 年度より，異種材質間の界面の組成，構造が，複合材料の加工特性，強度特性，環境特性等にどのような影響を与えるかを調査するために，鉄鋼基礎共同研究会内に鉄基複合材料部会が発足しました．この部会では，共通試料として，C レベルを変えた Fe-C 系合金をベースとした Ti のクラッド材，または TiN コーティング材を作製し，以下の研究項目に分かれて研究を行っています．

1)複合材料の最適素材製造条件の探索と成型性能評価法の確立
2)複合材料の強度特性，及び環境特性の評価法の確立
3)複合材料の加工特性，材料特性におよぼす界面組成，構造の役割の解明

前回は第 1 回中間報告会として，これらの研究活動の中で，特に，試料接合法と強度特性の関係に焦点を絞り，研究成果を報告いたしましたが，今回は加工特性と界面の評価法について報告いたします．多数の方々のご来聴をお待ちしております．

1.　主　催　鉄鋼基礎共同研究会*　鉄基複合材料部会
2.　日　時　平成 4 年 4 月 1 日（水）　9：00～12：00
3.　会　場　千葉工業大学　第 11 会場
4.　プログラム

（1）加工特性　座長：新日鉄　鉄鋼研　斉藤　　亨

1）圧延材料の評価

・圧延性	木内　　学（東大生研）
・成型性	小川　和博（住金鉄鋼技研）

2）コーティング材料の評価

・製造法（TiN）	渡辺　輝夫（大同研開）
・製造法（溶射）	吉田　豊信（東大工）
・腐食挙動	杉本　克久（東北大工）

（2）界面評価法　座長：東大工　石田洋一

・電子顕微鏡	乾　　晴行（京大）
・オージェ電子分光	本間　禎一（東大生研）・吉原　一紘（金材技研）・藤田　大介（金材技研）
・X 線光電子分光	広川吉之助（東北大金研）
・超音波顕微境	成田　敏夫（北大）

5.　問合せ先　（社）日本鉄鋼協会　技術室　宮谷　仁史・林　万紀子
〒100　東京都千代田区大手町 1-9-4　経団連会館 3 階　TEL（03）3279-6021　FAX（03）3245-1355

＊本会は日本金属学会，日本鉄鋼協会および日本学術振興会関係委員会と緊密な連携のもとに，鉄鋼の基礎的な研究を共同で行い，鉄鋼に関する学術および技術の発展に寄与することを目的としております．